

横須賀市文化財調査報告書 第33集

埋蔵文化財発掘調査概報集 VII

— 平成9（1997）年度分 —

1999. 3

横須賀市教育委員会

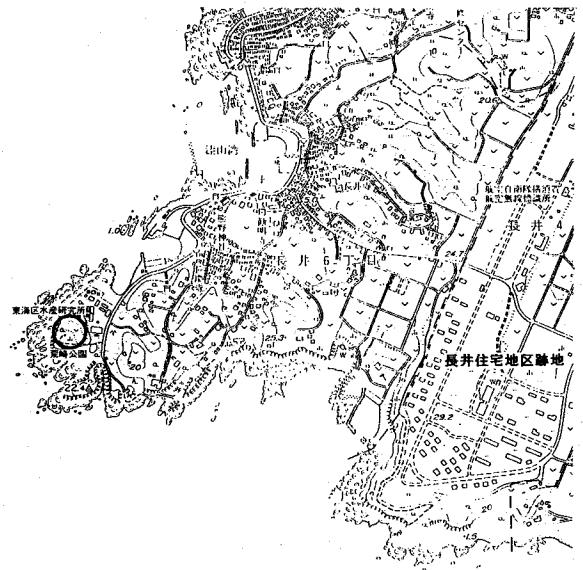
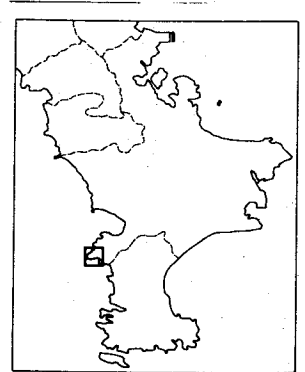
6. ^{あらさきだいば}荒崎台場 (No.177) ・ ^{あらさき}荒崎遺跡 (No.183)

所在地 横須賀市長井6丁目地内
 調査期間 平成9(1997)年11月11日～18日
 調査面積 20m²
 調査主体者 横須賀市教育委員会
 調査担当者 中三川 昇
 調査原因 遺跡範囲確認調査(公園造成工事)

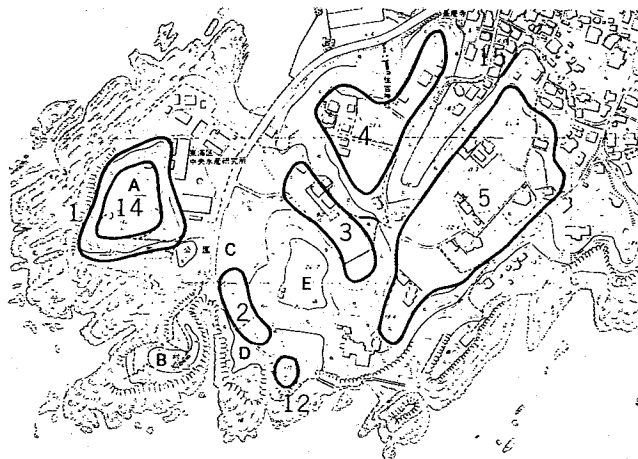
(1) 遺跡の位置と現状

荒崎台場・荒崎遺跡は横須賀市域南西部の長井台地の末端部に位置し、相模湾に突出した通称荒崎山と呼ばれる小規模な独立丘状の海蝕台地上に立地しており、古代の遺物散布地(荒崎遺跡・第2図14)及び、幕末の台場跡(荒崎台場(1)第2図1)として周知されている遺跡である。台場の遺構である玉除土手(土塁)は明治時代以降も遺存していたが、太平洋戦争中に築かれた荒崎高角砲台(2)と呼ばれた旧日本海軍の高角砲(3)陣地構築により破壊されたとされている。戦後は一部の地域が耕作地として利用されたが、近年はほぼ全域に篠竹が密生し、現地踏査による現状確認も困難な状況であった。

本遺跡の隣接地には下手西遺跡(第2図2、以下第2図は略)、下手北遺跡(3)、住吉神社裏遺跡(4)、下手東遺跡(5)、荒井やぐら群(15)、十文字洞穴(12)等、多様な遺跡が分布している。なお本遺跡南側、入江を挟んだ対岸の小丘が城山(4)と呼ばれており、遺跡東側の低地部分が城口(ジョウノクチ)と呼ばれる等、中世城館跡の存在も窺われる地域でもある。



第1図 遺跡位置図



- A 荒崎山
- B 城山
- C 城口
- D くらかけ
- E 中台

第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡(縮尺 1/7,500)